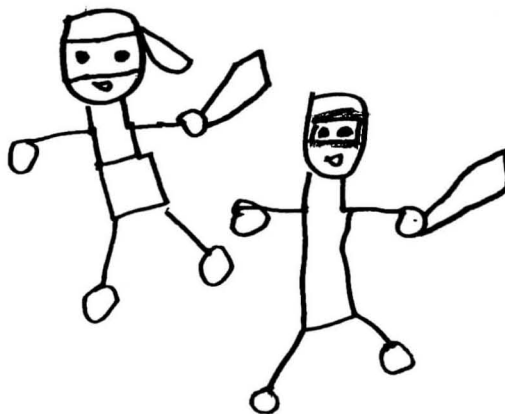


### (イ) 一人の子どもについての継続的記録

子どもたち一人一人の姿を追ってみると、幼稚園生活を通してだんだんと成長していく姿を実感することができる。私たち保育者は、子どもたち一人一人に応じた援助をしながら、この子はどのように成長してきたのか、これからの課題はどんなことだろうかと思いを巡らせながら保育に当たっている。

ここでは、子どもたちが「他」とのかかわりの中で自分らしさを発揮していく過程と保育者の援助の在り方、その時の保育者の思いについてまとめた。その際、今年度の研究の「もの」に限らず、「人」「もの」「自然」とのかかわりの中で自分らしさを発揮していく姿について挙げている。

昨年度の1年次の研究から継続して記録している年中児Y児と年長児Z児は、昨年度の姿から現在どのような姿へと変わっていったのかを紹介していく。また、年少児のX児についても、今年度から継続的に自分らしさを発揮していく過程を追っていく。



① 「他」との出会いから、さまざまな感動体験を味わうX児（年少児：女）

入園時

先生との出会いを喜び、目新しい幼稚園の環境に目を輝かせながら過ごす中で、登園するとランドセルを保育者に手渡したり、靴を履かせてもらうのを待っていたりするなどの姿が見られ、家庭での生活経験の浅さを感じた。

- 少しずつでも自分のことが自分でできるようになっていくよう援助を工夫していこう。

【保護者との連携】

- 家庭でも靴を履く、着替える等の身の回りの始末を親がするのではなく、自分でしようとする姿を見守り、その姿をほめ励ましていくよう助言する。
- 保護者が不安に思ったり、焦ったりすることがないように、子どもの様子を連絡帳や降園時を利用して話題にする。



4月25日

「ぶらんこ」

X児が「ぶらんこ」を楽しむ様子

- 同じクラスの友だちがぶらんこを楽しんでいるのを見付け、ぶらんこを指差して、言葉を発する。  
X「うっ！うっ！」  
保「Xちゃん、ぶらんこしたいの？」  
X「ぶらんこ！ぶらんこ！」  
保「そう、じゃあしてみようか」
- 保育者に押してもらいながらぶらんこに乗る。  
保「Xちゃん、二つの手をぎゅうっとつかんでいてね」  
保「ぶらんこって気持ちがいいねえ」  
X「ぶらんこ、気持ちいい」
- 近くにいた年長児A児、B児が近付いてくる。  
A「ぶらんこ、押してあげようか」  
保「Xちゃん、Aお姉ちゃんとBお姉ちゃんが押してあげようかって言っているよ。押してもらおうか」  
X「はい！」  
保「お姉ちゃんたち、優しいねえ」
- A児、B児に押してもらいながら、ぶらんこを楽しむ。



- X児の思いを汲み取りながら、様々なものとかかわる面白さ、楽しさを味わえるようにしよう。
- 面白さ、楽しさを共に味わいながら、言葉掛けを工夫していこう。

6月5日

「上靴が履けた」

X児が「上靴」を履けるようになった喜びを味わう様子

- 登園する。  
保「Xちゃん、おはようございます」  
X「おはようございます」  
保「今日もいっぱい遊ぼうね」  
X「遊ぼうね」
- 靴を脱ぎ、履きかけた上靴を手のところに持ち上げるため、上靴が落ちてしまう。  
X「うっ、うっ！」  
保「Xちゃん、こんな風に手を下に持ってきてごらん」
- 手を足もとに持っていき、履こうとする。  
保「Xちゃん、上手、上手！かかどのところを手で持つといいね」  
保「ゆっくりでいいよ」
- 上靴を自分で履くことができる。  
保「Xちゃん、履けたねえ。やったあ」



- X児の喜びを共に味わいながら、これからも一つ一つの積み重ねを大切にして励ましていこう。
- 家庭にもX児の成長を伝えていこう。

9月26日

「キティちゃんがいい！」

X児が「友だち」とかかわろうとする様子

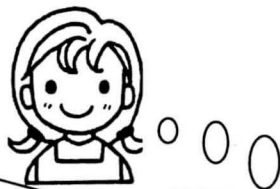
- キティちゃんのエプロンをA児が使っていることに気付く。
- A児のところへ行き、エプロンを指差し自分の気持ちを伝えようとする。  
X「うっ！うっ！」  
保「Xちゃん、どうしたの？」  
X「キティちゃん…」  
保「エプロンを使いたいの？」  
X「うん」  
保「エプロンは、ほかにもあるよ。引き出しの中を見てもいいよ」
- 泣き出し、自分の気持ちを言葉で保育者に伝える。  
X「キティちゃんがいい！」  
保「そうか…。でもキティーちゃんのエプロン、Aちゃんが使ってるんだ」  
X「キティちゃんがいい！」  
保「Aちゃんに聞いてみようか。『エプロン、貸して』って言ったらいいよ」
- 泣きながらA児に自分の気持ちを言葉で伝えようとする。  
X「キティちゃん…。うっ、うっ」  
保「Aちゃん、Xちゃんがエプロンを貸してって言ってるよ」

遊びを存分に  
楽しめるよう  
にエプロンを  
用意する。

もの

自分

保育者



- 気持ちに寄り添う。
- 必要な言葉を伝える。

- 友だちと少しずつかかわろうとする姿を見守っていこう。
- 自分の気持ちを伝えようとする姿を大切にしていこう。
- X児の思いを汲み取り、必要な言葉を適宜伝えていこう。

10月16日, 17日

「貸して！」

X児が「友だち」とかかわっている様子

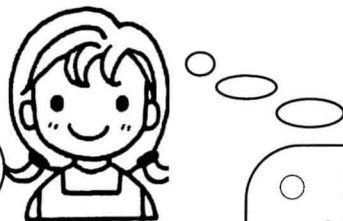
- 運動会で使ったうさぎの帽子をA児が着けて遊んでいるのを見付ける。  
X「うさぎ！うさぎ！」  
保「うさぎがどうしたの？」  
X「うさぎがいい！」  
保「そうか。Xちゃんはおうさぎのお面が使いたいんだね。そういうときは『貸して』ってお友だちに言うといいんだよ」  
X「(保育者を見ながら)貸して！」  
保「そう！じゃあ、今度はAちゃんのおめめを見て言ってごらん」
- A児のところへ行く。  
X「(A児を見て)貸して」  
A「いいよ」
- あくる日、B児が運動会ごっこをして遊んでいる。  
X「うさぎがいい！」  
保「うさぎのお面を使いたいんだね。何て言えばよかったかな」  
X「(B児を見て)貸して」  
B「いいよ。順番ね」  
保「Bくん、ありがとう」  
X「ありがとう」  
B「どういたしまして」

運動会の余韻を  
味わえるよう  
にうさぎのお面  
を用意する。

もの

自分

保育者



- 思いに寄り添う。
- 必要な言葉を一緒に考える。

- X児の「～したい」という気持ちを受け止めていこう。
- X児の言葉の背景にある思いをしっかりと捉えられるようにしよう。
- 引き続き、必要な言葉を適宜伝えていこう。

入園時からX児の姿を追って記録していったことで、X児が「ぶらんこ」「上靴」「友だち」等の「他」とかかわる中で何を思い、どんな感動を味わっているのかを追究することができたとともに、X児の成長の様子を改めて感じることができた。

子どもたちが自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① 安心して過ごせる場としての幼稚園づくり

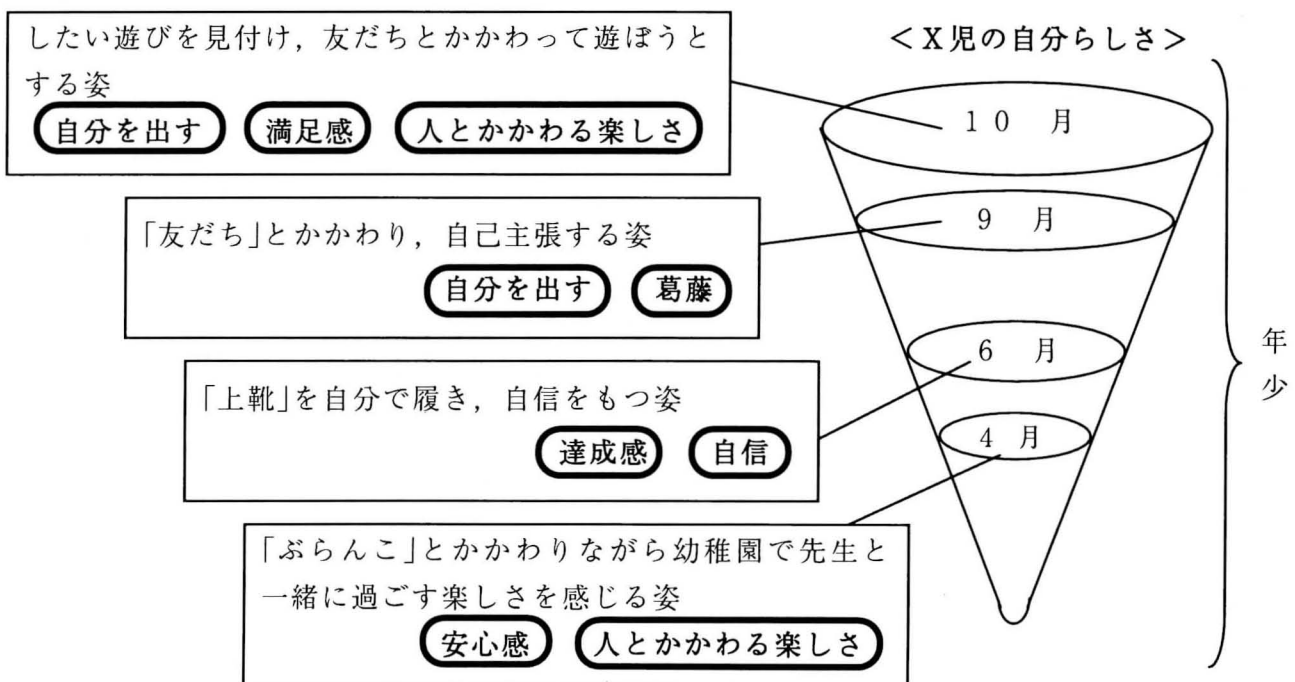
- 表情やしぐさ、発する言葉などから一人一人の思いを汲み取り、その子の思いに寄り添いながら保育を展開していくことで子どもとの信頼関係を築いていく。
- 降園時や連絡帳等を活用して幼稚園での様子や家庭での様子を語り合い、保護者との信頼関係を築いていく。

② 自信をもつことのできる機会をつくること

- 一人一人の課題に応じた心地よい負荷を与えていく。
- できた喜びに共感していく。
- 子どもたちが味わった喜びをほかの友だちや保護者にも伝えていく。

③ 友だちと触れ合える機会をつくっていくこと

- 子どもたちの興味・関心を大切にする。
- 保育者も遊びに加わりながら友だちと遊ぶ面白さに共感したり、友だちのよさや思いに気付いたりするような言葉掛けをしていく。



② いろいろな友だちとかかわる中で、自分の思いを伝えられるようになったY児  
(年中児：女)

これまでの姿

三年保育で入園してきたY児は、入園当初は保護者と離れがたく涙を流す姿も見られていた。保育者は、安心して幼稚園生活を送れるように手をつないで過ごしたり、抱っこしたりなどのスキンシップを図り信頼関係づくりに努めるようにした。

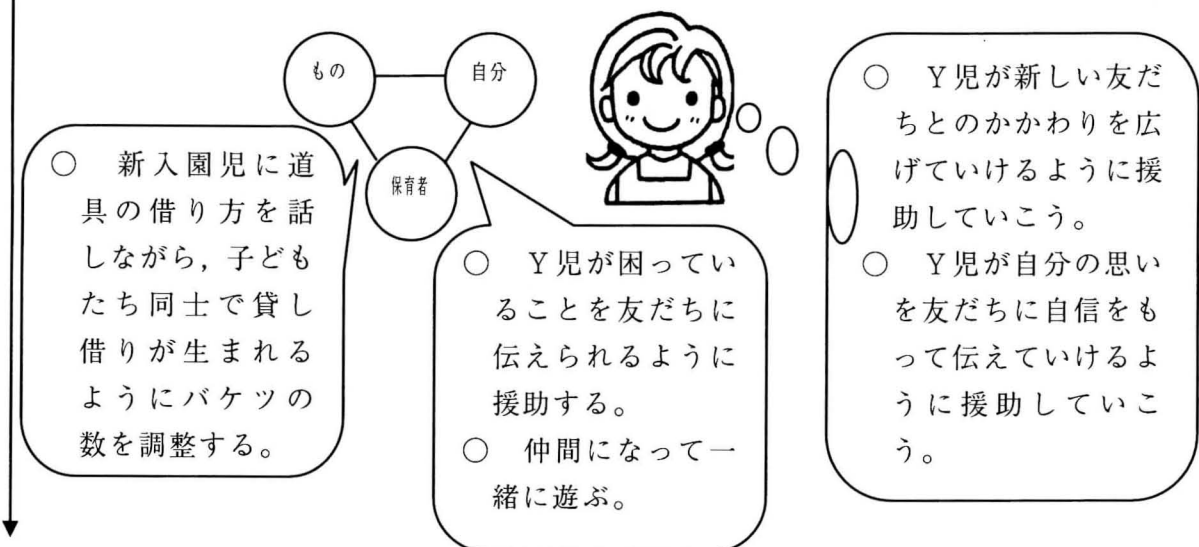
1学期の後半になると、積極的に友だちとかかわるようになり、自分を出せるようになってきた。そして、2学期には鉄棒の前回りを友だちに教えてあげようとする姿も見られ、園生活を十分に楽しめるようになってきた。

4月（進級当初）

「新入園児とのかかわり」

Y児が友だちとかかわっている様子

- Y児が友だちと4人でままごとをして遊んでいる。新入園児がY児たちの使っていた道具を何も言わずに持って行ってしまう。  
Y「先生、あの子が使っていたバケツを持って行った」  
保「あの子はAちゃんって言うんだよ。新しく幼稚園に来たお友だちだから分らなかったのかもしれないね。先生と一緒に話してみようか」
- 保育者と一緒にA児のところへ行く。初めは、もじもじしていてなかなか言葉が出てこない。  
保「Yちゃんが困っていることを話したらいいよ」  
Y「そのバケツはYが使っていたから返して」
- A児はすぐに返す。その後、同じ場所で一緒にままごとをしていた。
- 翌日の朝、登園時。  
Y「あ、AちゃんとBちゃんが来たよ」  
保「お名前覚えたんだね」  
A「うん、昨日一緒に遊んだもん」

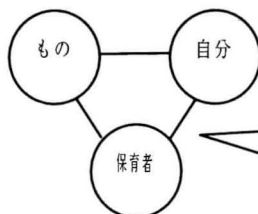


10月29日

「ドングリをどうぞ」

Y児が年少児とかかわっている様子

- 毎朝のように友だちと一緒にドングリを集めている。  
Y「先生見て、こんなにたくさんあったよ」  
保「たくさん拾えてよかったね。Yちゃんたちがこんなに拾っちゃうとほかの友だちの分がなくなっちゃうかもね。みんなにも分けてあげられるといいね」  
Y「じゃあ、これみんなで使っていいよ」
- 毎朝保育者にドングリをプレゼントする。  
Y「先生、ドングリあげる」  
保「先生いつもたくさんもらっているから、はな組さんにあげたら？」
- もじもじしているのを、はな組担任に保育者が声を掛ける。  
Y「なんて言ったらいいの？」  
保「はな組さんでどうぞって言ったらいいんじゃない？」  
Y「はな組さんでどうぞ」  
A「ありがとう」
- 恥ずかしそうにしながらも満足気な表情を見せる。



- 年少児の存在に気付かせる。
- 年少児にどんな言葉を掛けたらいいか一緒に考える。



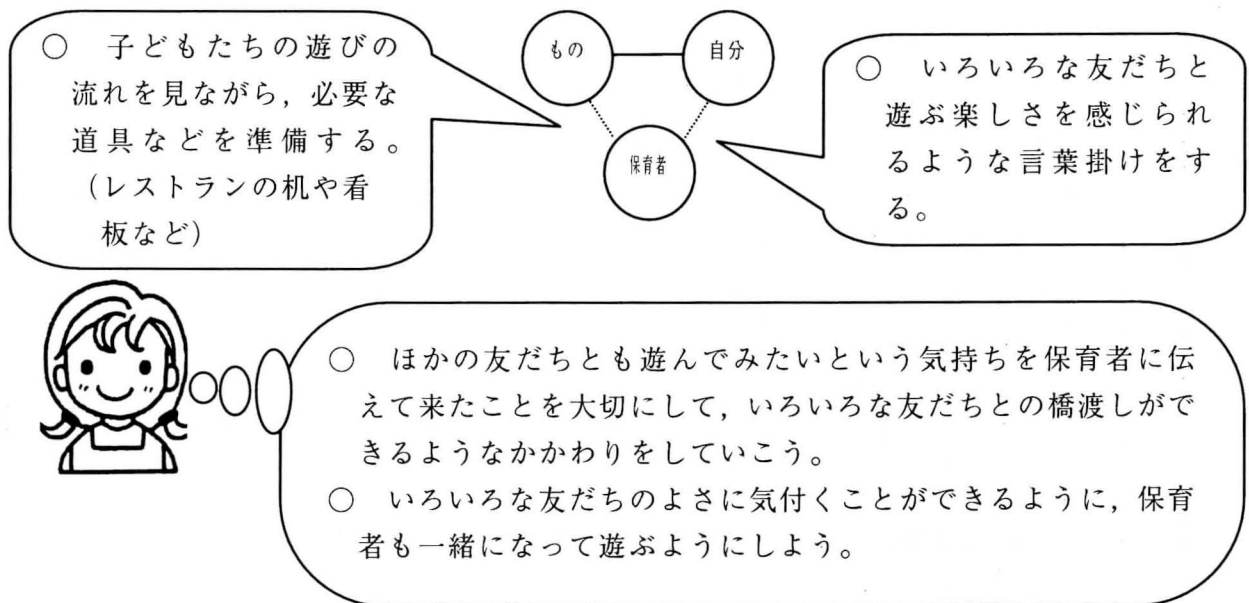
- 普段の遊びの中でかかわりが少ない友だちとも、保育者が介さなくても自分の思いを伝えることができるような機会を大切にしよう。
- 自分が仲良くしている友だち以外ともかかわる機会を多くもてるように意識してかかわろう。

11月下旬

「今日は○○ちゃんと遊びたい」

Y児が自分の思いを友だちに伝えていく様子

- 毎日のように遊んでいる気の合う友だちがいたが、その子以外の友だちとも遊んでみたいという気持ちを保育者に伝えてくる。  
Y「今日は、AちゃんとBちゃんと遊びたいな」  
保「Yちゃんが遊びたいと思う友だちと遊んだらいいんだよ」
- 毎朝登園すると、保育者に誰と遊びたいかを伝えていたが、次第に自分で友だちに声を掛けて遊び始めるようになる。  
Y「Aちゃん、今日は一緒に遊ぼう。ブランコのところで待ち合わせね」  
A「分かった」
- いろいろな友だちとかかわるようになる。  
保「今日はCちゃんとままごとしているんだね。おいしそうなおごちそうができたね」  
Y「先生、食べてみて！」



一人の子どもを追跡していくことで、Y児が仲良しの友だちだけでなく、いろいろな友だちとかかわり、また、かかわってみたいという思いをもつ過程を追うことができた。また、年少児の時に安心して過ごせる場となった幼稚園で、年中児となり自分の世界を広げていこうとするY児の成長を感じることができた。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

- ① いろいろな友だちとかかわり、そのよさに気付くようにしていくこと
  - 保育者も一緒に遊ぶ中で、クラスのいろいろな友だちに親しみをもてるようにする。
  - 気の合う友だちと一緒に遊ぶことを大切にしながら、クラスで行う活動や異年齢児とかかわる機会を意識してもち、いろいろな友だちのよさに気付くことができる場づくりをする。
  - 保育者が子ども一人一人のよさを言葉にし、子ども同士がお互いを認め合えるクラスづくりをする。
- ② 自分の思いを伝えられるようにすること
  - 子どもの思いを丁寧に聞きながら、必要なときは子どもの思いを相手に伝えていく。
  - どんな風に伝えたらいいかを一緒に考えながら、子どもが自分の思いを伝えられたときは一緒に喜ぶようにする。
  - 降園時の活動などを通して、自分の思いを友だちや保育者に伝える機会を意図的につくるようにする。

いろいろな友だちと遊ぶ楽しさに気付いて，自分から誘うようになった姿

自分を出す 伝え合い

人とかかわる楽しさ 満足感 自信

普段かかわりの少ない年少児に対して優しく接し，自信をつけた姿

自分を出す 伝え合い

満足感 人とかかわる楽しさ

達成感 自信

新入园児など，新しい友だちとかかわりをもち始めた姿

自分を出す 伝え合い

人とかかわる楽しさ 満足感

自信をもち，友だちとのかかわりを楽しむ姿

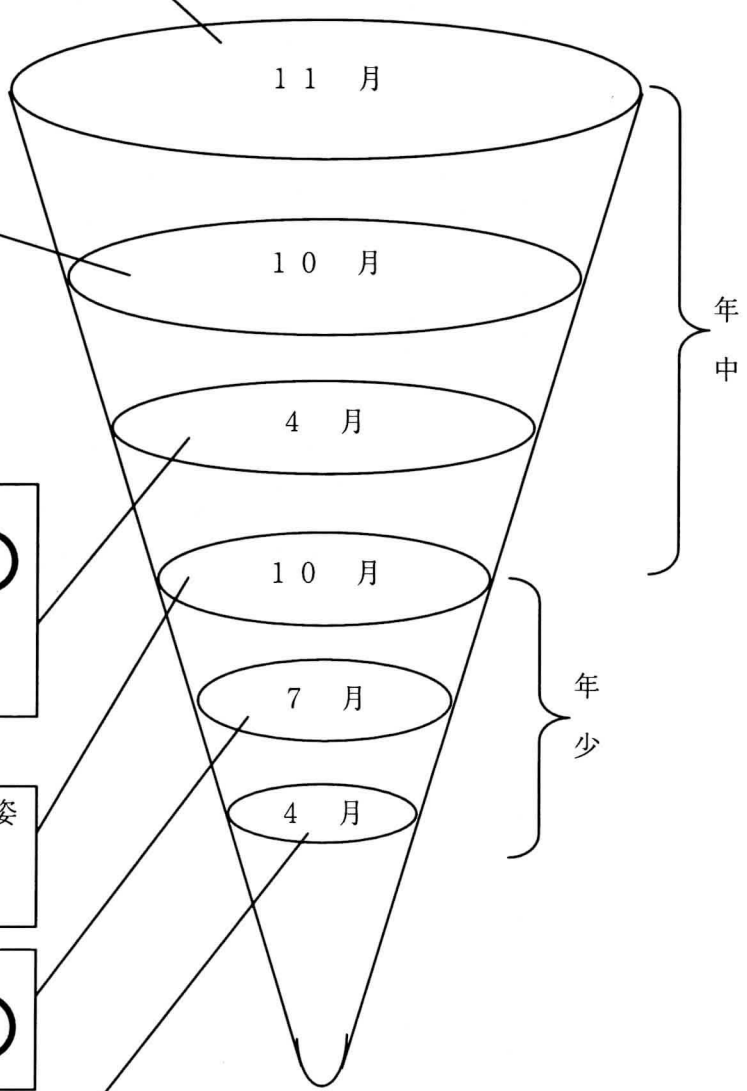
自分を出す 達成感 満足感

友だちと遊ぶ楽しさを感じ始めた姿

自分を出す 人とかかわる楽しさ

先生と一緒に過ごす楽しさを感じ始めた姿

安心感



③ 自分の好きなことを見付け、友だちとのかかわりを楽しむZ児（年長児：男）

これまでの姿

二年保育で入園してきたZ児は、入園当初自分のやりたいことが見付からず、友だちのしていることをじっと見ている日々が続いていた。しばらくして、製作遊びがきっかけとなり、好きな遊びを楽しめるようになったZ児は幼稚園が安心できる場所となったようだ。次第に、保育者や友だちと一緒に空き箱を組み合わせてガムテープを貼ったり、自分のしたいことを言葉で伝えてきたりする姿が見られるようになっていった。

2学期には、年下の友だちとも劇遊びを通してかかわりをもち、クラスの友だちだけでなく、異年齢の友だちとも交流を楽しむようになった。

進級してからも、登園するとすぐに製作遊びを中心に、好きな遊びを見付けて楽しく過ごしていた。近くにいる友だちを中心にしながら、自分からかかわろうとする姿も見られるようになってきた。

6月4日

「ジュース屋さんごっこ」

Z児が友だちとかかわっている様子

- ペットボトルに花紙と水を入れてジュースをつくり、ジュース屋さんを開いている。  
Z「オレンジ、メロン、イチゴのジュースがありますよ」  
保「ありがとう。おいしいな」  
Z「お客さん、もっと来てくれないかな」  
保「みんながここにジュース屋さんがあるって分かるようにしてみる？」  
Z「そうだ、看板をつくろう」
- 様々なサイズの紙の中から好きな紙を選び、看板をつくる。  
Z「『じゅーすやさん』って書いたよ」  
保「矢印（→）も書いてあるから、どこにあるか分かりやすいね」
- 看板を見た友だちと宣伝に出掛ける。  
A「看板を持ってお客さん呼びに行こう」  
ZABC「うみ組でジュース屋さんをしています。来てください」

○ 子どもたちが必要なものを聞きながら、準備する。（様々なサイズの紙を提供する。）

もの

自分

保育者

○ お客になって仲間に加わる。  
○ 遊びが広がるような言葉掛けをする。



- Z児がかかわりを広げようとする姿を逃さず受け止め、Z児と友だちとのつながりを意識してかかわろう。
- 様々なアイデアをもつZ児であることを友だちに紹介し、Z児が友だちとのかかわりをもつ機会を増やそう。

7月15日

「クイズ屋さんです」

Z児が友だちとかかわっている様子

- 二つ折にした広告紙を開き、4等分になった広告紙に文字を書き込む。  
Z「先生、後でお楽しみがあるからまだ見ないでね」  
保「え〜、何だろう？楽しみだな」
- 文字を書き込み、仕上げたものを保育者に見せにくる。  
Z「これは、野菜クイズです。さて、何の野菜でしょう？いち、緑色です。  
に、ボールみたいな形です。さん、あお虫が好きです」  
保「うーん、何だろう？あっ、キャベツ？」  
Z「正解！」
- Zと保育者のやりとりを見ていた子どもたちがやってくる。  
A「何してるの？」  
保「Z君、何してるか、教えてあげたら？」  
Z「野菜クイズだよ」  
B「えっ、楽しそう。やらせて〜」  
Z「じゃあ、問題です。・・・」

- いつでも使える素材として、正方形に切った広告紙を置いておく。

もの

自分

保育者

- 仲間になって遊びを楽しむ。
- Z児のアイデアが周りの子どもたちに伝わるように言葉掛けする。



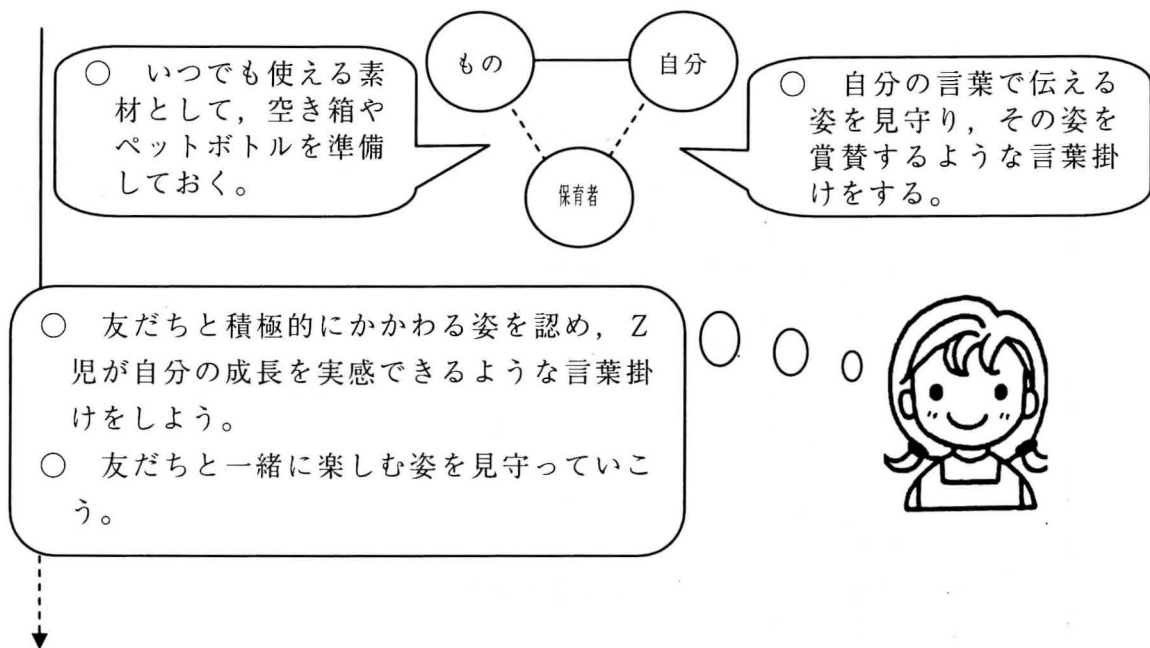
- Z児が保育者に話したいことをじっくり聞き、工夫したところを認めてあげよう。
- Z児が友だちとのやりとりを楽しむ様子を見守り、必要に応じて保育者が言葉を補うなどの援助をしていこう。

11月下旬

「一緒につくろう」

Z児が友だちとかかわっている様子

- 友だちと同じものをつくってみたいという気持ちを伝える。  
Z「ぼくもつくってみたい。どうやってつくるの？」  
A「教えてあげるよ。箱を持ってきて」  
Z「分かった！」  
保「Zくん、Aくんにお願いできてよかったね」
- 友だちと一緒に空き箱やペットボトルを使って好きなものをつくる。  
Z（友だちのつくり方を見て）「これでいいの？」  
A「いいよ。これを持って出掛けよう」
- つくったものを使ってヒーローごっこをして遊ぶ。  
Z「ぼくは、〇〇だぞー！（ポーズを決める）」  
A「ぼくは、〇〇！あっちに行くぞ」  
Z「待て待て〜！」



入園時から2年間、Z児の姿を追って記録していったことで、自分の好きな遊びを見つけ、友だちとかかわり、自分のアイデアを広げ、遊びを充実させていく過程を追うことができた。

子どもたちが幼稚園生活を楽しみ、自分らしさを発揮して過ごすために、以下のことを大切にしたい。

① 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう機会を多くもつこと

- 友だちとかかわる姿を見守ったり、時には仲間になったりと、その場でどのような立場でいることがよいかを探りながらかわる。
- 子どもたちそれぞれの工夫していることを周りの友だちが気付くことができるように、必要に応じて言葉掛けをする。
- 自分の思いを伝える姿を見守り、どのタイミングで援助していくかを見極める。

② 遊びが充実するような「もの」を探ること

- 今、子どもたちがどのようなことに興味・関心をもっているのかを探っていく。
- 子どもたちから出た発想を大切にしながら、必要なものを一緒に考えたり、保育者から提案したりする。
- 子どもたちが面白いと感じるものを提供できるように、保育者自身の感性を磨く。

